

2018-19年度ライオン誌日本語版委員会 第1回会議 報告書

日 時：2018年7月20日(金)14:00～16:30

場 所：一般社団法人 日本ライオンズ 事務所

出席者：国際理事 佐藤 義雄 (長野県・戸倉上山田ライオンズクラブ)
国際理事 安澤 荘一 (福島県・白河小峰ライオンズクラブ)
議長連絡会議世話人 識名 安信 (沖縄県・八重山ライオンズクラブ)
議長連絡会議副世話人 今井 文彦 (東京巢鴨ライオンズクラブ)
委員 渡辺 和廣 (330複合地区／山梨県・甲府シティライオンズクラブ)
委員 渡辺 修 (331複合地区／北海道・美唄ライオンズクラブ)
委員(留任) 稲岡 敬弘 (332複合地区／秋田ライオンズクラブ)
委員(留任) 渡邊 信也 (333複合地区／新潟県・亀田ライオンズクラブ)
委員(留任) 神崎 守 (335複合地区／京都やわたライオンズクラブ)
委員(留任) 矢野 敏明 (336複合地区／島根県・松江葵ライオンズクラブ)
委員 椿 幸雄 (337複合地区／熊本火の国ライオンズクラブ)
前年度委員 久津間康允 (330複合地区／神奈川県・小田原白梅ライオンズクラブ)
前年度委員(委員長) 佐々木忠康 (331複合地区／北海道・小樽ライオンズクラブ)
前年度委員 小柴 登司 (337複合地区／沖縄県・浦添ウエストライオンズクラブ)
ITアドバイザー 荘 英隆 (東京恵比寿ライオンズクラブ)
ITアドバイザー 辰巳 博昭 (兵庫県・神戸須磨ライオンズクラブ)
事務局長 菅原 雅雄 (東京堀留ライオンズクラブ)
欠席者：委員(留任) 西川 恒彦 (334複合地区／静岡県・富士宮ライオンズクラブ)
一般社団法人専務理事 井出 孝 (神奈川県・平塚ライオンズクラブ)



第1回会議開催に当たり、会議の招集者である識名安信八複合地区ガバナー協議会議長連絡会議世話人からあいさつがあり、7月13日の議長連絡会議後に岡山県倉敷市の西日本豪雨被災地を視察した際の取材記事がウェブマガジンに掲載されて各地の会員から反響が寄せられていることが紹介され、会員に感動と誇りを与えるライオン誌の役割は重要であり、今後も委員会としてその重責を果たしてほしいと話された。佐藤、安澤両国際理事、今井八複合地区ガバナー協議会議長連絡会議副世話人からあいさつがあった後、2017-18年度の佐々木委員長の進行で議事に入った。

【議事】

1. 2017-18年度委員会からの引き継ぎ事項

●2018-19年度ライオン誌日本語版決算予想

決算予想及び2018-19年度予算案について会計担当者が説明した。

- ・2017年度は国際協会のデジタル化推進に向けた方針により、下半期の2018年1月から大きな変更があった。国際協会補助金は上半期は年間6ドル（半期3ドル）、下半期は年間4ドル（半期2ドル）となり、年間で5ドルが入金された。また国際協会補助金はこれまで半期ごとに期中に入金されていたが、下半期からは四半期ごとに期の終了後に入金されるため、第4四半期分（4～6月分）は予想金額を未収入金として計上した。
- ・ライオン誌送料収入はほぼそのままライオン誌送料経費として支出されるが、年度中に郵便料金及びトラック便運賃の値上げがあったことなどから、支出が約60万円多くなった。
- ・デジタル関連費は一般社団法人日本ライオンズ理事会に予算を提出した2017年5月の時点ではコンテンツが確定しておらず、サイト構築を始め各種見積もりから高額な経費が発生することが予想された。しかし内製率を高めるなど経費削減に努め、予算より300万円抑えることが出来た。
- ・2017-18年度の収支差額は1,127,146円の黒字となった。

●2018-19年度ライオン誌日本語版予算案

一般社団法人日本ライオンズ理事会から、事務所費負担を当初合意の5：5からライオン誌の負担分を6に変更することと、それによって生じる赤字分の削減を求められ、修正予算案を策定して6月に理事会へ提出済みであることが報告された。7月12日の日本ライオンズ第3回検討委員会に出席した矢野編集長からは事務所費負担を当初合意の通り5：5とするよう要望したところ理解が示されたとの報告があり、新年度一般社団法人日本ライオンズの決定によって、再度修正の可能性があることが説明された。

●ライオン誌日本語版の方向性

ライオン誌の編集方針や運営について定めた「国際理事会方針書 第16章ライオン誌」と「ライオン誌日本語版委員会規程（改正案）」及び「ライオン誌日本語版委員会方針」を確認。委員会規定（改正案）は一般社団法人日本ライオンズの設立や2018年からの発行体制変更を反映させるべく2017-18年度委員会で策定したもので、新年度委員会で国際理事会方針書との整合性を確認した上で改正の手続きを進めるよう申し送りがあった。委員会方針については、新年度委員会でもこの方針を踏襲することが確認された。

●330複合地区薬物乱用防止委員会からの要請

330複合地区薬物乱用防止委員会の近藤正彦委員長発信の佐々木委員長宛て2018年6月12日付文書で、薬物乱用防止教育認定講師制度に対して内閣府始め4省庁の後援名義使用許可を受けているが、内閣府担当者から機関誌やホームページに教室開催に関する情報が少ないとの指摘があったことから、次年度はライオン誌ウェブマガジンに全国の薬物乱用防止教室の記事及び写真を掲載してほしいとの依頼があったことが報告された。330複合地区同委員会が各複合地区に呼び掛けてライオン誌に教室を開催したクラブの報告を提出するとのことで、報告が届き次第、ウェブマガジン「活動報告」に掲載する。

2. 2018-19年度ライオン誌日本語版委員会委員長、編集長互選

委員長に336複合地区の矢野敏明委員、編集長に332複合地区の稲岡敬弘委員が選出された。

新年度人事の決定後、稲岡編集長の進行で議事を再開した。

3. 本誌関係

●2018年9・10月号台割(案)

9・10月号の台割案が提出された。表紙はグドラン・イングバドター新国際会長のポートレート、「特集：ラスベガス国際大会」で大会の様様を写真を中心にレポートし、大会直前に行われた地区ガバナー・エレクト・セミナーについては城阪勝喜グループ・リーダーが指名した地区ガバナー2人に原稿を提出して頂く。新年度関係の記事として「国際会長テーマ」「新国際理事抱負：安澤荘一国際理事」を掲載する他、8月2日に予定されているアガワルLCIF理事長による西日本豪雨被災地視察（広島市）を取材し、識名議長らによる岡山県倉敷市視察の囲み記事と併せて掲載。8月2日のLCIF理事長セミナーは「ライオンズ・インフォメーション」欄で取り上げる。「国際理事だより：佐藤義雄国際理事」、「編集室：矢野敏明委員長」。

●2018年11・12月号以降特集企画

神崎委員提案「アラート」と編集スタッフ立案のテーマ案が示された。神崎委員からは、全国のクラブがアラート委員会を設置するなど大災害に備える必要があると提案趣旨の説明があった。現在、西日本豪雨災害に対する救援活動が行われており、被災地で支援に取り組むライオンズの活動をいち早く報じるべきとの意見が出た他、今年度議長連絡会議で緊急時の全国的な連携態勢を構築する計画があるとの識名世話人の話や、335複合地区で来年2月に全国アラート・フォーラム開催の予定があるとの情報を踏まえて、11・12月号特集は「西日本豪雨災害」とし、「アラート」は3・4月以降の号で取り上げることにした。

4. ウェブマガジン関係

●ラスベガス国際大会更新

国際大会の各日ハイライトを伝えた「ニュース」記事について意見を交換した。大会に参加出来なかった会員にも大会の様様がタイムリーに伝えられて良かったと評価する意見があった。

●2018年8月号以降台割案

ウェブマガジン8～10月号の主要コンテンツの内容が提出され、承認された。

5. 主要記事予定

2018-19年度主要記事予定で、今年度委員会が担当する本誌の編集室執筆順を検討した。編集室の掲載は6回のため年度内に委員全員に担当が回らないことになる。9・10月号は矢野委員長が執筆することを確認した上で、11・12月号以降の執筆順は次回委員会で決定することとした。

8月と9月の取材経費が提出され、日程等が決まっていない4件を除いて承認した。

6. その他

- 会員動静及び奉仕活動に関する情報を収集するため、例年通りサバンナを通じて全クラブを対象とした「クラブ・アンケート（2018年版）」を実施することが承認された。
- 共有の外付HDDとしてIO-DATA HDJA-UTシリーズ1台、及び共有と動画素材のバックアップ用としてエレコムSGD-NZUBKシリーズ1台の購入が承認された。
- 新年度ITアドバイザーとして、小柴登司2017-18年度委員と、荘英隆、辰巳博昭両2017-

18年度ITアドバイザーの3人に協力をお願いする。

- 新年度のサポーター制度について検討した。これまで同様、各地区1人ずつサポーターを推薦して頂くよう地区ガバナーに要請すると共に、前年度委員にサポーターをお願いする。

閉会あいさつ 矢野敏明委員長

【次回以降委員会開催予定】

8月7日(火) 13:30~16:00 日本ライオンズ事務所

9月6日(木) 13:30~16:00 日本ライオンズ事務所